

令和 5 年 9 月 15 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H01638

研究課題名(和文)現代中国における腐敗パラドックスに関するシステム/制度論的アプローチ

研究課題名(英文)A Study to elucidate corruption paradox in contemporary China

研究代表者

菱田 雅晴 (Hishida, Masaharu)

法政大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：00199001

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,000,000円

研究成果の概要(和文)：腐敗が多領域に渉る錯雑な複合現象であることから、政治学、経済学あるいは社会学、犯罪学等の知見を糾合して、腐敗汚職に関する総合的な学術的検討を進め、研究計画段階で当初設定した腐敗行為を「公権力による私的利益の追求」とする定義に何ら変更を加えるべき理由は見当たらないこと、また、現代中国における腐敗の猖獗と高成長の持続の同時成立をパラドクス視し、二項対立的に捉えることは事態を矮小化しかねないこと、寧ろ、腐敗行為の有するインセンティブとディスインセンティブの両側面およびそれによって形成される《権・圏・銭シンドローム》の検討こそが腐敗学の核心テーマたるべきことを確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

腐敗の経済成長、社会発展、政治発展のそれぞれに対するパラドクス状況につき、とりわけ政治体制の交替あるいは急激な経済成長とそれに伴う社会変動等大規模な構造変動が出現する移行期にあっては、多様な制度、機能、価値意識が併存するため、腐敗現象もさまざまな相貌を示し、その帰結としての「緩い制度」をもたらすこととなる「曖昧な空間」の発生メカニズムとプロセスを学術的に明らかにしたことで腐敗抑制のための具体的な施策検討の指針を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：Since corruption is a complex and multidisciplinary phenomenon, we have conducted a comprehensive academic study by combining knowledge from political science, economics, sociology, criminology, and other fields, and have found no reason to change the definition of corruption as "the pursuit of private profit by public authority," which was initially set at the planning stage of the research. Furthermore, the paradoxical and dichotomous view of the simultaneous emergence of corruption and sustained high growth in contemporary China may trivialize the situation. Therefore, the examination of the two aspects of incentives and disincentives of corrupt behavior and the 《Qian-Quan network》 formed by these two aspects should be the core theme of corruptionology.

研究分野：政治社会学

キーワード：腐敗 汚職 権力 落馬 党紀国法 腐敗圏 権・圏・銭シンドローム 中国

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1967年、ジョゼフ・S・ナイが「腐敗は道徳主義者の手のみに委ねておくにはあまりに重大な事象」と喝破し、1976年西原正が「腐敗の政治的、経済的効果を取り扱わないのは研究の片手落ち」だと腐敗研究の重要性を訴えて以来、ほぼ半世紀の時間を経たが、腐敗学は依然として未形成である。伝統的に、腐敗とは、単なる個人の道徳問題にして、他国の腐敗問題の討究はしばしば内政干渉に陥りかねないと看做されてきたからである。1990年代以降、発展途上国の国家運営の非効率あるいは旧社会主義国の脆弱な政治構造が露呈するにつれ、国際社会には「グッド・ガバナンス」構築支援という観点から汚職・腐敗問題に対する取り組み機運が本格化したものの、本邦にあっては、多領域に渉る錯雑な複合現象としての腐敗汚職に関する総合的な学術的検討は行われていない。対象視野を現代中国に限定しても、腐敗現象そのものを狙上に載せた本格的な研究作業は皆無といつてよい。

しかしながら、腐敗ほど、今日の中国の政治、経済、社会システムの直面する課題を端的にさし示す現象はない。高い経済成長の達成と腐敗現象の蔓延の同時存在という事態は、伝統的な開発経済学の知見に対抗的のようにも見える。また、現政権が展開する摘発と規律の強化を核とする反腐敗キャンペーンは清廉な政治を求めるひとびとの欲求に呼応したポピュリスティックな政治手法とも目されると同時に熾烈な権力闘争、すなわち、権力層内部の再編成過程という色彩も色濃い。それらの背景には、1970年代末以来の改革開放政策の推進過程における政治権力と市場諸力との錯雑な関係形成を見出すことができる。

中国における腐敗現象の蔓延には、以下のようなパラドキシカルな情況が看取される。

- (1) **政治発展と腐敗**：「政治発展」を合理性、近代性、公正性の増大という文脈で解するならば、腐敗と政治発展は両立し得ない。政治発展を近代化に伴うガバナンス能力の増強とすれば、腐敗はその対極にあるからである。国家目標として近代化を掲げ、治理=ガバナンスの向上を掲げる中国にあっての腐敗の猖獗は逆説的のよう映る。
- (2) **経済発展と腐敗**：腐敗は、レント(供給不足によって作り出される超過利潤)シーキングによる国富の流失を始めとし、国家財政を弱体化させ、対外信用を失わせしめるなど成長に対する阻害要因となり、腐敗は経済成長に対し、非促進的である。にも関わらず、中国は世界史的にも稀有な高度成長過程を長期に持続させた。
- (3) **社会発展と腐敗**：法の支配に対する信任増加と個の自律と覚醒による社会発展を通じ、不正、不公正に対する批判が高まることから、社会発展と腐敗が併存することはできない。ひとびとの腐敗に対する反撥にも関わらず、腐敗現象は中国社会の各領域、各階層に深く浸透している。
- (4) **反腐敗と腐敗**：反腐敗とは、法執行強化、綱紀肅正等各種ルートを通じた腐敗撲滅を目指す努力であるにも関わらず、その過程にあって腐敗がより一層蔓延する事態とはまさに逆説的である。口封じのために更に殺人を重ねるシリアル・キラーにも似て過去の不正を隠蔽せんがための腐敗行為も増加しており、反腐敗の当事者が腐敗のコアに位置するとあってはパラドックスの極ともいえる。

本研究は、こうした背景から、①現代中国における腐敗現象の蔓延というパラドキシカルな事態に刮目し、現代中国の腐敗現象の特質、全体像を把握すべく、②インセンティブ・システム、制度論等に依拠して、共時的並びに通時的な比較検証作業を行うことで、その分析ツールを開発し、③従来、学の対象としてほぼ等閑視されて来た腐敗現象に対する関心に学問的市民権を与えるべく、腐敗学の再構築を目指そうとしたものである。

2. 研究の目的

これまで、中国の腐敗現象に関しては、それぞれの関心領域でいくつかの先行研究がなされて来た。その成果は、腐敗事象の蔓延と急速な経済成長の関係を従来知見からのパラドックスと捉え、中国的腐敗事態につき『略奪型腐敗』の概念を提起したウィードマン(Andrew Wedeman *Double Paradox: Rapid Growth and Rising Corruption in China* 2012)のほか、党組織幹部の集団的腐敗として中南海研究に新たな地平を拓いた Lu Xiaobo(呂曉波)の《*Cadres and Corruption: Organizational Involvement of the CCP*. 2000》に代表される。過勇(清華大学公共管理学院)は腐敗規模の測定をめぐる広範な検討を行って、廉政研究の地歩を固めた(『腐敗測量』2015)。

本邦にあっては、『東南アジアの政治的腐敗』(1976)で西原正が腐敗学を提唱して以来、大内穂らがインドネシア等東南アジア諸国を主対象にした一連の事例研究を行った。中国に関しては「双軌制」状況下における「官倒」、すなわち、残存する計画経済のシステムと浸透する市場システム間の権・銭トランスファー関係に注目し、これを官僚腐敗の本質と捉えた菱田(1990)を嚆矢として、上記呂曉波(2000)を紹介した書評論文(菱田 2002)のほか、経済学分野では、岑智偉(京都産業大学)が中国所得分配調査(CHIP)2007 データから灰色収入を推計することで、腐敗の経済効果についての理論・実証分析を行おうとしたほか、中兼和津次が腐敗と成長との間に負の相関関係が存在するとした(『体制移行の政治経済学』2001)のに対し、「曖昧な制度」論の適用により、先のウィードマン・パラドックスを検討し、一定数の腐敗が経済成長にビルトインされていることを強調した加藤弘之の業績(『中国経済学入門～「曖昧な制度」はどのように機能しているか』2016)が存在している。

だが、これらの個別の研究成果にも関わらず、以下のような根本的問いが必ずしも解明されてはいない。そもそもひとは何故腐敗するのか、悪しき性根を持つ悪しきものが腐敗するのか、それとも「善きサマリア人」とても悪しき環境下にあっては腐敗に手を染めることとなるのか？そして、腐敗とはある種の制度として存立しているのみならず、市場、計画に次ぐ資源配分機能を有しているのではあるまいか。上述の中国における腐敗パラドックスの解明を目指すことにより、これらの問いに肉薄することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、中国の腐敗現象が示すパラドキシカルな事態に関する実態論的分析と腐敗学構築のための一般分析ツール開発とその検証・適用の二者から構成された。前者では、中国的腐敗の具体的個別事案の事例蒐集研究と政治社会学的手法に基づく腐敗関知度/寛容度に関する広範なアンケート調査実施を当初目指したが、計画年度におけるコロナ禍の蔓延により、中国現地への渡航が事実上不可能となり、これに伴う中国国内の政治的緊張もあり、現地カウンターパートとの交流も困難となったことから、腐敗関知度/寛容度調査の断念を余儀なくされた。

これを補完すべく、前項で示した中国の腐敗パラドックスに対し、以下のインセンティブ・システム・アプローチおよび制度論アプローチによる解明を行うことに集中した。

すなわち、前者は、腐敗行為に対する誘引インセンティブとして、伝統/礼物文化、人脈・コネ、“関係”、金銭第一主義、レント等を指定する一方で、道德倫理、世論、メディア、法制度、“嚴打”、一罰百戒、恐怖、打算等を腐敗行為への“跳躍”を断念させる制約インセンティブとするアプローチであり、後者は、それら主観的認知レベルのインセンティブ・システムを構成する外部環境要因として行政機関、司法・検察制度、市場体制等を「制度」として位置づけ、クライエントリズム(Junichi Kawata, Comparing Political Corruption and Clientelism)、プリンシプル・エージェント理論、過程・事件分析(孫立平『現代化と社会転型』2005)等を援用し、その形成・整備状況を検討した。

こうした個別の研究成果のフィードバックと相互検証を行う場として、研究分担者、研究協力者、連携研究者等からなる《廉政研究会》を本邦内に設置し、集団討議を通じた研究活動を展開した。

4. 研究成果

上記の通りの学的情況を背景に、中国における腐敗パラドックスの解明を目指すべく、インセンティブ・システム・アプローチおよび制度論アプローチによる分析を進めたが、その主要成果は下記4点の問いに集約することができる。すなわち、腐敗とはどの国にも、どの時代にも見られるいわばフツ〜の現象ではあるが、この腐敗現象を現代中国に発生している特異な政治経済社会現象として限定するならば、中国腐敗とはどのように捉えられるべきか、何が、どこで起きているのか、どのように捕まえるかである。

(1) 腐敗をどう定義するか？

腐敗行為を「公権力による私的利益の追求」と定義することは、果たしてこれで十分だろうか？腐敗を公権力の濫用に限定することは、すなわち、政府官員による汚職、瀆職行為に限定することとなり、社会全体の不正を看過することになりはしないか。私企業内の各種権限の濫用も腐敗行為と看做すべきではないか。談合、裏金、口銭、キックバック、賄賂等の私企業間の不正な取引は、取引コストとして企業会計に算入されるものの、市場メカニズムの歪みをもたらすものとして広義腐敗に加えるべきではないか。日本における「みなし公務員」といった規定も参考にすれば、腐敗はどのように定義されるべきか？

これは、腐敗行為の主体・当事者をどのように理解するか、すなわち、腐敗主体を大なり小なりの公権力を手にした官員、公務員に限定するのか、それとも官員の腐敗に関わるもう一方の当事者としての民間人の諸行為をも腐敗行為としてどこまで糾弾すべきか、更には、民間人同士の私企業間のビジネス取引をも広義腐敗として捉えるべきか、もう一步進めるならば、お歳暮、お中元あるいは飲食場面への誘いといった、ある特定の影響力、パワーを持つ（と看做した）友人知己への接近も邪な意図を隠し持つ限り、腐敗と称し得るのではないか。中国固有ともいべきギフト・カルチャー（＝贈り物文化）の伝統それ自体にも、腐敗の芽を窺うことが可能である。

一方、腐敗によってもたらされる結果としての被害対象は様ではない。私企業間の談合、裏金、口銭、キックバック、賄賂等の不正な取引等のビジネス商業上の腐敗の被害は主に取引先、株主、企業所有者の利益、権利あるいは市場メカニズムの歪みや浪費などであり、被害の対象、範囲は具体的かつ限定的である。これに対し、公権力の腐敗は、前者とは異なり、公共福祉、公共財産、公共道德などを毀損することとなり、これらは截然と区分されるべきであろう。

また、「権力」を国家機関、政府等公的組織における公的に賦与された「公権力」と同様に各私企業組織において各ポストに与えられた決定権限、決裁権限あるいは方針執行権等をも「権限」、「民権力」としてより広範に理解することも可能である。これらからは、ヒトの営み、社会の営為すべてを腐敗の眼差しで観察することになる。腐敗は時空を超えて、まさしく遍く存在することとなり、腐敗研究とは、森羅万象の社会全範囲を対象とする広袤無限大の途轍もない作業とならざるを得ない。

しかしながら、中国腐敗を考察対象と限定する<中国>腐敗学を目指す限りにおいては、やはり腐敗行為を「公権力による私的利益の追求」とする定義に何ら変更を加えるべき理由は見当たらない。

但し、<中国>腐敗学においては、腐敗の可視性の限界等の固有の留意が必要である。すなわち、公的な腐敗事案報告は、遍く存在する中国腐敗現象の氷山の一角を示すに過ぎず、いわば目に見える《顕腐敗》であり、《潜腐敗》ともいうべき不可視、不可触の不正行為の蔓延がこれら可視化された腐敗事案、《顕腐敗》の後景として存在している。

また、①国家の行政編制に属する党と政府の機関、公有セクター企業、②半官半民的性格のいわゆる「事業単位」、③これらと業務関係を有する民間組織（私営企業など）が現代中国における腐敗のメイン・アクターとして措定される。彼らによって巻き込まれる、ないしは彼らを腐敗へと誘う、贈賄者に代表される民間セクターの人々がいわばこの腐敗ドラマの助演者となり、「腐敗圏」が形成される。これが権・銭ネットワークであり、政商関係における業界団体・商会等から構成される「腐敗圏」である。

こうした腐敗ネットワークの背景因となる関係網 *guanxiwang*、すなわち、地縁、血縁、同窓、戦友などに基づく社会的ネットワークから成る「人情 *renqing* 社会」のありようにも十分留意する必要がある。見返りを期待する贈答文化、あるいは官本位主義、権力を崇拜視する伝統文化が掣肘されることなき特権を生み出し、《潜腐敗》とも称すべき不可視的な制度的腐敗の温床となる。これらが構造化されることにより成立するのが上述の「腐敗圏」である。

(2) 中国における「腐敗パラドクス」をどう理解すべきか？

腐敗類型を略奪型と開発型に二分し、後者類型ではパラドクスたり得ずとのウィードマン解釈は肯定されるのか。両者の併存も瞬間風速的事態として、時間経過によりいずれか一方が遞減するという単なる一時的現象なのだろうか。そもそも現代中国で観察される事態はパラドクスなのか？

この問いに答える際の第一のポイントは時間の取り扱いであり、時間経過により解消され得る一時的パラドクス現象と理解することもできる。例えば、経済が成長し、豊かさがひとびとに均等に配分された結果として、ひとびとの意識が公正にヨリ目覚めて行くならば、その温床となる土壌が次第に失われ、最終的には腐敗も姿を消すことになる。腐敗に関する逆U字仮説も、ピークに至るまでの間がパラドクスとされるに過ぎず、現在時点を観察するのみのわれわれの眼にはそれが恰もパラドクスのように映ぜられるのみなのかも知れない。

そもその問いは、腐敗とはどのような機能を有する現象なのか、という点にある。腐敗とは、例えば、経済成長を促進する現象なのか、それとも腐敗とは発展を阻害する何らかの要素を胚胎したものなのか。実は、ミクロ、マクロの実証では、必ずしも腐敗パラドクスは確認されてはいない。成立する場合もあれば、成立していないケースもある。腐敗を「よい腐敗 *good corruption*」と「悪い腐敗 *bad corruption*」と区分してみるのも参考となる。つまり、腐敗行為によって得られた「収益」を腐敗者個人がひとり懐にいれるのみで周囲になんらの便益をもたらすことなく、当該個人の欲望充足のみに消費されるとすれば、それが略奪型腐敗であり、「悪い腐敗」である。これに対し、腐敗「収益」を自らのポケットに入れるにとどまらず、ひとびとにも配分し、公共目的にそれをを用いる結果、公共の秩序、安寧、発展がもたらされるのが「よい腐敗」となる。開発型腐敗とは「よい腐敗」の一類型とも捉えられる。

従って、腐敗パラドクスという把握は、腐敗のある側面を浮かび上がらせ、比較の視点を得る上では有効な概念装置とはいえるものの、二項対立的に捉えるあまり事態を矮小化しかねない。「清水塘里不養魚」（＝清い水に魚は住めない）という俚言にも示される通り、腐敗には欲望解放へのインセンティブが胚胎されている。パラドクスという否定的な謂を超えて、先ずは腐敗行為の有するインセンティブとデイスインセンティブを丹念に解明することが課題となる。

(3) 中国における腐敗／反腐敗の特質はどこに見出されるか？

中国腐敗現象の形態的特性とそれをもたらすこととなる要因の両者に分解しよう。中国におけるさまざまな腐敗行為の形態特性としては、権力の濫用を特徴視した中国的表現として“以権謀私”および“以權代法”が抽出されるが、必ずしも中国固有の事態とは言えない。だが、“以権謀私”の具体的側面として高官腐敗事案から「中国的特徴」として剔出される(1)腐敗潜伏官僚の跋扈、(2)超多額の腐敗額、(3)量刑における嚴罰主義、(4)集団腐敗、(5)官商結託事案（高級官僚と国営企業・民営企業の長の腐敗事案）、(6)着任早々からの腐敗着手は他国・地域における腐敗事例に同趣の事態を見出すことはむづかしい。殊に、「帯病提拔」、すなわち、腐敗しつつも潜伏し、出世の階段を上がるという「半ば制度化した」「潜規則（＝隠れたルール）」の存在がとりわけ中国的な特徴として浮上する。また、習近平の反腐敗キャンペーンにあっては政治闘争と派閥闘争が濃厚であり、反腐敗が政治闘争と政治動員の重要なツールと化している点は極めて中国的な特徴であろう。

結論的には、中国腐敗の蔓延を単一の要因による単純事象と看做すことはむづかしい。字義通り、複数の要因位相から独特の形態を示す極めて錯雑な現象である。現代中国の腐敗現象とは、インフォーマルな文化伝統と規範に駆動された各個人が、フォーマルな制度の曖昧さと歪みの間を縫って権力を用い、諸個人間の相互行為のシステムとして「腐敗圏」を構造化し、それが私的利益を追求する不正行為として顕在化したものとして把握される。それが、現代中国の腐敗特性としての《権・圏・銭シンドローム》である。

(4) 習近平の腐敗／反腐敗政策は中国に何をもたらすことになるのか？

反腐敗、すなわち、腐敗撲滅の特効薬、万能薬はあり得るのか？それは中国に適用可能なものなのか？現状の腐敗／反腐敗政策がそのまま進行したとするならば、すなわち、腐敗のヨリ一層の蔓延あるいは習近平の反腐敗政策のヨリ一層の徹底によって、中国にはどのような変化が招来されることになるのか？

前述の通り、現代中国における腐敗現象が複数の要因位相から発生・蔓延し、特異な形態を示す極めて錯雑な現象である限りにおいて、その発生要因としての発展途上過程、社会主義体制、資本主義要素そして文化伝統要因を超越しない限り、腐敗の撲滅は不可能事であろう。近代化をヨリ一層推し進めることで、発展途上位相を超越し、本来あるべき行政機能を発現させると共に旧来の硬直した社会主義体制を変革し、権力の濫用を可能とする「曖昧な空間」を極小化することで全き市場システムの運用を図ること、すなわち、市場改革と政治体制改革の一層の展開が求められる。これなくしては、腐敗は中国を飲み続けることとなる。この意味では、腐敗症状に対して即効力が期待される特効薬は存在しない。上記のさまざまな対症療法を辛抱強く続けるしかない。

習近平政権が進めて来た反腐敗キャンペーンには、(1)腐敗という、あってはならぬ社会的不正を糺すという本来あるべき施策、(2)腐敗に対する大衆の不満を先取りしたポピュリスト施策、そして(3)政治的ライバル追い落としの政治的ツール等のさまざまな側面が看取される。「一強」体制と称されるような盤石な権力基盤が整うならば、(3)の政治的側面の必要性は低減するであろうし、(2)の民意支持調達も補完的な役割にとどまることとなる。そのような状況に至るならば、これまでのような大型キャンペーン、政治運動としての腐敗撲滅、反腐敗の激しい動きは沈静化し、本来の(1)の側面に集中することも予想される。

一般に、腐敗対策とは(1)不正行為への監視、(2)それが明らかとなった際の摘発・処罰、そして(3)背景となる深層因としてのひとびとの意識改革の3次元に尽くされる。これまでの習近平反腐敗闘争が(2)の厳格化措置を中核に据えたものであったことからすれば、今後は(1)、(3)へとシフトするであろう。この市民の眼差しによる監視監督強化の「ネットワーク反腐」を一步進めて、各地に貼りめぐられた CCTV (監視カメラ)によりあらゆる行動把握を行い、これと個人のショッピング等物財・サービス購入等に関する金融状況を結合し、AI (人工知能)によるアルゴリズム解析を通じて、例えば各人の「腐敗スコア」を算定するとすれば、諸個人レベルの腐敗行為を徹底的に監視することもできよう。これにより、公職人員のあらゆる行為の透明性を高め、ヒト、カネ、モノの動きが徹頭徹尾捕捉される結果、腐敗実行のハードルはかつてない規模に高まる。まさしく中国的パノプティコン世界が出現する日こそが、腐敗の徹底制圧の成功を宣言する日となる。

他方、習近平の反腐敗は、大衆の喝采を浴びる反面、胡錦濤時代までに得られていた腐敗行為、瀆職を通じた物質的なインセンティブが減ることから、官僚組織の勤労意欲、モラルの低下がもたらされ、官僚集団のサボタージュ現象、消極的抵抗も顕在化し始めている。同時に、官僚機構の忖度心理と政治的硬直性の度合いも増しており、反腐敗政策の推進によって、現象としての腐敗こそ抑制されたものの、統治機構全体には「政治的腐食」とも言うべき現象が、あらわになりつつある。というのも、習近平の反腐敗とは畢竟「恐怖」による封じ込めであり、「劇薬」であったからである。

腐敗症状に対する対症療法の継続の帰着としてのガバナンス装置の「腐食」は、果たして現レジームの融解、溶解、そしてついには崩壊へと繋がるのであろうか。それは、腐敗対策の監視・摘発・心理改造の3ツールをどのようなウェイトで展開するか、一にそのバランスに係っている。

最後に、残された解明すべき命題と今後の課題を付言するならば、最大の課題は腐敗の持つ本来機能の解明である。腐敗は経済成長、社会発展、政治発展のそれぞれに対してどのようなインセンティブとディスインセンティブを有しているのか、これを各発展段階別に炙り出すことができれば、それぞれの次元における腐敗の作用を詳細に描き出すことで、パラドクス状況の一層精緻な解明に迫ることができよう。特に、政治体制の交替あるいは急激な経済成長とそれに伴う社会変動等大規模な構造変動が出現する移行期にあつては、多様な制度、機能、価値意識が併存するため、腐敗現象もさまざまな相貌を示すこととなり、その解明はとりわけ重要である。そこから、腐敗の本来的な機能が明らかとなるならば、ひとはなぜ腐敗するのか、本性悪のゆえなのか、それとも善きサマリア人をも腐敗させる悪き環境ゆえなのか、腐敗学の根本命題に迫ることができよう。

もう一つの大きな課題は、「制度の緩み」ないしは「緩い制度」をもたらすこととなる「曖昧な空間」の発生メカニズムとプロセスおよびその時間的変化の解明である。大きな利益をもたらすこととなる権力をめぐって「腐敗圏」とも言うべきネットワークがどのように形成・維持されるのか、その「腐敗圏」は利益、権力をめぐる各種制度の創出、運用に対し、どのような働きかけを行うのか、なぜそのような放埒、恣意が曖昧なままなら撃肘を受けることなく罷り通ってしまうのか…まさしく地域研究としての中国研究のなすべきところはここにあり、<中国>腐敗学の目指すところである。ここに<中国>腐敗学から腐敗学へと至る道筋が示されている。

[了]

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 菱田雅晴	4. 巻 -
2. 論文標題 「党国家体制」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『よくわかる現代中国政治』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yan, Shanping	4. 巻 8
2. 論文標題 The changing faces and roles of communist party membership in China: an empirical analysis based on CHIPS 1988, 1995 and 2002	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 99, 120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巖善平	4. 巻 第66巻第3号
2. 論文標題 「改革・発展・安定の三位一体論と鳥籠政治 中国は「八九政治風波」から何を学んだか」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『アジア研究』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木隆	4. 巻 90
2. 論文標題 「中国共産党「領袖」考：政治文書の用例にみる政治・イデオロギー史的考察」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国際情勢：紀要』	6. 最初と最後の頁 11, 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Suzuki	4. 巻 vol. 8, no. 1
2. 論文標題 China's United Front Work in the Xi Jinping Era: Institutional Developments and Activities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 83, 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高原明生	4. 巻 第1巻第4号
2. 論文標題 「米中対立 覇権の行方」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『Security Studies安全保障研究』	6. 最初と最後の頁 1, 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菱田雅晴	4. 巻 -
2. 論文標題 「なぜ「反腐敗」なのか」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『習近平が変えた中国』小学館	6. 最初と最後の頁 50-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菱田雅晴	4. 巻 -
2. 論文標題 「党国家体制」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『よくわかる現代中国』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛里和子	4. 巻 -
2. 論文標題 「新しいアジア学・中国学」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『多文化社会研究』(長崎大学大学院多文化社会研究科・多文化社会学部編)	6. 最初と最後の頁 268-276
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛里和子	4. 巻 -
2. 論文標題 「習近平の中国は何処へ行く? 中国・米国・日本の共存・対抗時代へ」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『現代の理論』	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天児慧	4. 巻 No.673
2. 論文標題 「第19回党大会は何を物語るか 焦点習近平時代の行方」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際問題』日本国際問題研究所	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巖善平	4. 巻 -
2. 論文標題 「農業・農村・農業(三農)問題」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『現代中国経済論(第2版)』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 61-77
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嚴善平・薛進軍	4. 巻 第60巻第1号
2. 論文標題 「中国における「成人高等教育の拡張および就業者収入増への効果 普通高等教育との比較分析を中心に」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『アジア経済』	6. 最初と最後の頁 2-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朱建榮	4. 巻 -
2. 論文標題 「『一帯一路』を日中両国共通のロマンに」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『一帯一路からユーラシア新世紀の道』 日本評論社	6. 最初と最後の頁 215 - 218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤幸則・大島一二	4. 巻 60(2)
2. 論文標題 「日系企業海外子会社における不正問題の実態と課題：中国進出日系企業の事例研究」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『桃山学院大学経済経営論集』	6. 最初と最後の頁 27-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 諏訪一幸	4. 巻 -
2. 論文標題 「中央外交工作会議の開催と習近平外交思想の実践」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 笹川平和財団WEBサイト	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 諏訪一幸	4. 巻 -
2. 論文標題 「党政機構改革と習近平氏の権力強化」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 笹川平和財団WEBサイト	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木隆	4. 巻 第673号
2. 論文標題 「習近平時代における中国共産党の黨員リクルート政策：労働者の疎外と労農同盟喪失の組織実態」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際問題』（日本国際問題研究所）	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木隆	4. 巻 -
2. 論文標題 「政治構想、リーダーシップ、指導部人事の特徴」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『習近平「新時代」の中国』（アジア経済研究所）	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田円	4. 巻 195
2. 論文標題 「中国とカナダの国交正常化交渉 - 西側諸国との関係改善と「一つの中国」原則の形成」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際政治』	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田円	4. 巻 621
2. 論文標題 「統一」促進の意思を明確に示した習近平政権	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東亜』	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菱田雅晴	4. 巻 第1巻第1号
2. 論文標題 「形容詞形から名詞形へ 曖昧な移項？」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『中国経済経営研究』(中国経済経営学会)	6. 最初と最後の頁 pp.17 ~ 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菱田雅晴	4. 巻
2. 論文標題 「中国：不安定下の安定」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『アジア太平洋の未来図～ネットワーク覇権』(川口順子・秋山昌廣編、中央経済社)	6. 最初と最後の頁 pp.44 - 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菱田雅晴	4. 巻 -
2. 論文標題 「なぜ「反腐敗」なのか」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『習近平が変えた中国』(天児慧編、小学館)	6. 最初と最後の頁 pp.50 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛里和子	4. 巻 -
2. 論文標題 「グローバル中国との付き合い方」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 高橋五郎編 『新次元の日中関係』	6. 最初と最後の頁 41-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天児慧	4. 巻 -
2. 論文標題 「中国と伝統的安全保障の役割」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 羽場久美子編 『アジアの地域統合を考える』 明石書店	6. 最初と最後の頁 51-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Amako	4. 巻 Vol6 No.1
2. 論文標題 "Methods for area studies and contemporary China study"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天児慧	4. 巻 -
2. 論文標題 「地域研究方法与現代中国研究」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『国外社会科学』中国社会科学院情報研究中心	6. 最初と最後の頁 66-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akio Takahara	4. 巻 -
2. 論文標題 The CCP 's Meritocratic Cadre System	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Lam, Willy Wo Lap (ed.), Routledge Handbook of the Chinese Communist Party (Routledge)	6. 最初と最後の頁 153-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高原明生	4. 巻 -
2. 論文標題 中国の幹部選抜任用制度をめぐる政治	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 加茂具樹・林載桓編著『現代中国の政治制度 時間の政治と共産党支配』（慶應義塾大学出版会）	6. 最初と最後の頁 131 - 148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朱建榮	4. 巻 -
2. 論文標題 「中日関係の未来：恢復歴史常態？」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『同舟共進』（中国）	6. 最初と最後の頁 31 - 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嚴善平	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 「中国経済奇跡及其内在機制 兼論日本経験与中国経済下一步」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『世界経済文匯』（復旦大学）	6. 最初と最後の頁 23-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shanping Yan	4. 巻 Volume 41 Issue 2
2. 論文標題 Structural change, industrial upgrading and China's economic transformation (with Jun Zhang, Keijiro Otsuka, Xiaolan Fu)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 China Economic Review	6. 最初と最後の頁 54-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shanping Yan	4. 巻 -
2. 論文標題 Structural Change, Industrial Upgrading and China's Economic Transformation (with Jun Zhang, Xiaolan Fu)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Economic Systems	6. 最初と最後の頁 pp.163-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南裕子	4. 巻 No. 2018-02
2. 論文標題 「「恵農政策」下の中国共産党の農村ガバナンス：基層党組織の実務の現状から」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Discussion Paper、 Graduate School of Economics, Hitotsubashi University	6. 最初と最後の頁 pp.1 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 諏訪一幸	4. 巻 -
2. 論文標題 「中華民国から台湾へ - 台湾の変化が問いかけるもの」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鈴木隆・西野真由編『現代アジア学入門』芦書房	6. 最初と最後の頁 101-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 諏訪一幸	4. 巻 -
2. 論文標題 「習近平長期政権の始動」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 総合政策研究所『インテリジェンス・レポート』	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高萩(中岡)まり	4. 巻 第63巻(2017)2号
2. 論文標題 書評「杜崎群傑著『中国共産党による「人民代表大会」制度の創成と政治過程 権力と正統性をめぐって』」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア政経学会『アジア研究』	6. 最初と最後の頁 42-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高萩(中岡)まり	4. 巻 -
2. 論文標題 「立法・司法」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国研究所『中国年鑑2017』	6. 最初と最後の頁 143-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田実	4. 巻 第65巻9号
2. 論文標題 「中国の国際反腐敗協力の新展開 「一带一路：廉潔之路」は実現できるか？」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 拓殖大学海外事情研究所『海外事情』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木隆	4. 巻 第46巻第2号
2. 論文標題 「『六・四』天安門事件前後の習近平：『擺脫貧困』に見る地区党委員会書記時代の政治論」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『問題と研究』（台湾）、国立政治大学国際関係研究センター	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木隆	4. 巻 -
2. 論文標題 「第2期目習近平政権の政権構想、イデオロギー、リーダーシップ、人事」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア経済研究所	6. 最初と最後の頁 近刊
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田円	4. 巻 -
2. 論文標題 『以商困政』とアイデンティティのせめぎあい	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 特集 習近平政権と香港・台湾 『中国年鑑2017』	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田円	4. 巻 -
2. 論文標題 [中国と台湾の関係はどうなるのか - 中国は台湾の民主主義にどのように向き合うのか]	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 「大国」としての中国 どのように台頭し、どこにゆくのか(加茂具樹、一藝社)	6. 最初と最後の頁 129-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Madoka Fukuda	4. 巻 -
2. 論文標題 " The Japan-Taiwan Relationship Under the Tsai Ing-wen Administration "	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Lee Wei-chin ed. Taiwan's Political Re-Alignment and Diplomatic Challenges. Palgrave Macmillan	6. 最初と最後の頁 printing
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田円	4. 巻 第71巻第5号
2. 論文標題 書評：毛里和子・毛里興三郎訳『ニクソン訪中機密会談録【増補決定版】』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『現代中国月報』	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田圓	4. 巻 第1巻第3号
2. 論文標題 習近平政權和香港、台灣：『以商逼政』與本土認同的攻防戰	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Contemporary Japan and East-Asian Studies	6. 最初と最後の頁 45-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田 円	4. 巻 64
2. 論文標題 家永真幸著『国宝の政治史 「中国」の故宮とパンダ』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 79～82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.64.1_79	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Akio Takahara
2. 発表標題 Reshaping Vision for Trilateral Cooperation: A View from Japan
3. 学会等名 日中韓三国協力国際フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高原明生
2. 発表標題 「中国政治と米中対立」
3. 学会等名 アジア国際法学会日本協会第10回秋季研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木隆
2. 発表標題 「習近平氏とはどのようなリーダーか？：地方指導者時代の著作にみる政治認識、リーダーシップ、指導者像」
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木隆
2. 発表標題 「習近平時代における中国共産党の統一戦線政策」
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木隆
2. 発表標題 「『習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想』と 改革開放転換 の思想連関」
3. 学会等名 アジア政経学会2018年度秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 FUKUDA Madoka
2. 発表標題 The Frontline of Taiwan 's Sustainable Diplomacy: The Japan-Taiwan Relations after Taiwanese Democratization
3. 学会等名 The 15th European Association of Taiwan Studies Annual Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaharu Hishida
2. 発表標題 "A Path toward Corruptionology: Theory and Practice"
3. 学会等名 Department of Government and Public Administration, Hong Kong University
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 毛里和子
2. 発表標題 基調報告「現代中国の外交はどこまで " 中国的 " か？」
3. 学会等名 東洋文庫・国際ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 毛里和子
2. 発表標題 「日本の当代中国研究」(中国語)
3. 学会等名 中国・華東師範大学周辺国家研究院
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 毛里和子
2. 発表標題 「アジア学・中国学、そして日本学」
3. 学会等名 早稲田大学和解学・日本学シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 毛里和子
2. 発表標題 「当代日本の中国研究 - 源流と挑戦」
3. 学会等名 宮中 講書始
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高原明生
2. 発表標題 不確実な世界の中の中国 ポスト毛沢東時代の終焉か
3. 学会等名 2017年度アジア政経学会春季大会共通論題
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 朱建榮
2. 発表標題 「南シナ海問題の展開と東アジア共通安全保障」
3. 学会等名 国際アジア共同体学会・2017春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 朱建榮
2. 発表標題 「日本如何看朝鮮半島与南北統一問題」
3. 学会等名 中国周辺国家學術研究討論会（中国・華東師範大学主催
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嚴善平
2. 発表標題 「中国の經濟發展と格差問題」
3. 学会等名 札幌大学孔子学院『2017年度孔子学院連続講座 現代中国の經濟と社会を知る』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 David Wank
2. 発表標題 “Globalizing Chinese Buddhism as Values and Ethics.”
3. 学会等名 Department of Chinese Studies, National University of Singapore
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 David Wank
2. 発表標題 “ Perspectives on Global Studies: History, Theory and Practice. ”
3. 学会等名 Public Lecture of the Social Sciences and Global Studies Research Lecture Series, Hitotsubashi University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 David Wank
2. 発表標題 “ Global Chinese Buddhism: Ideoscape of Values, Ethics and Lifestyles, ”
3. 学会等名 Xiamen University, Department of Anthropology
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高萩（中岡）まり
2. 発表標題 「選挙における買収当選と中国共産党の支配 - 買える議席と買えない議席」
3. 学会等名 アジア政経学会2017年度秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木隆
2. 発表標題 「習近平時代における中国共産党の党員リクルート政策」
3. 学会等名 アジア政経学会2017年度秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 中国とカナダの国交正常化交渉 西側諸国との関係改善と「一つの中国」
3. 学会等名 日本国際政治学会2017年度研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Madoka Fukuda
2. 発表標題 Japan's Policy toward China and Taiwan
3. 学会等名 Strategic Japan Program
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Madoka Fukuda
2. 発表標題 The Current Situation and Prospects for Taiwan Under the Tsai Ing-wen Administration
3. 学会等名 Japanese Views on China and Taiwan: Implication for the U.S.-Japan Alliance
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 菱田雅晴	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 384
3. 書名 『現代中国の腐敗と反腐敗 汚職の諸相と土壌』	

1. 著者名 天兒慧、菱田雅晴、高原明生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 326
3. 書名 『証言 戦後日中関係秘史』	

1. 著者名 南裕子・閻美芳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 253
3. 書名 『中国の「村」を問い直す 流動化する農村社会に生きる人びとの論理』	

1. 著者名 川島真、高原明生、遠藤真、松田康博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 272
3. 書名 『中国の外交戦略と世界秩序 理念・政策・現地の視線』	

1. 著者名 川島真、小嶋華津子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 『よくわかる現代中国政治』	

1. 著者名 毛里和子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 『現代中国外交』	

1. 著者名 天児慧	4. 発行年 2018年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 265
3. 書名 『習近平が変えた中国』	

1. 著者名 趙宏偉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 337
3. 書名 『中国外交論』	

1. 著者名 毛里 和子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 日中漂流 : グローバル・パワーはどこへ向かうか	

1. 著者名 天児慧	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 『中国政治の社会態制』	

1. 著者名 Ryosei Kokubun, Yoshihide Soeya, Akio Takahara, and Shin Kawashima	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 234
3. 書名 Japan-China Relations in the Modern Era	

1. 著者名 朱建榮	4. 発行年 2017年
2. 出版社 花伝社	5. 総ページ数 178
3. 書名 『世界のパワーシフトとアジア』	

1. 著者名 鈴木隆・西野真由編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 芦書房	5. 総ページ数 220
3. 書名 『現代アジア学入門：多様性と共生のアジア理解に向けて』	

1. 著者名 鈴木隆・西野真由編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 芦書房	5. 総ページ数 220
3. 書名 『現代アジア学入門：多様性と共生のアジア理解に向けて』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	天児 慧 (Amako Satoshi) (70150555)	早稲田大学・国際学術院(アジア太平洋研究科)・名誉教授 (32689)	
研究分担者	高原 明生 (Takahara Akio) (80240993)	東京大学・大学院公共政策学連携研究部・教育部・教授 (12601)	
研究分担者	嚴 善平 (Yan Shanping) (00248056)	同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授 (34310)	
研究分担者	唐 亮 (Tang Liang) (10257743)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	Wank David (Wank David) (60245793)	上智大学・国際教養学部・教授 (32621)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	朱 建栄 (Zhu Jianrong) (30248950)	東洋学園大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授 (32520)	
研究分担者	大島 一二 (Oshima Kazutsugu) (40194138)	桃山学院大学・経済学部・教授 (34426)	
研究分担者	諏訪 一幸 (Suwa Kazuyuki) (50374632)	静岡県立大学・国際関係学部・教授 (23803)	
研究分担者	趙 宏偉 (Zhao Hongwei) (40265773)	法政大学・その他部局等・講師 (32675)	
研究分担者	加茂 具樹 (Kamo Tomoki) (30365499)	慶應義塾大学・総合政策学部(藤沢)・教授 (32612)	
研究分担者	小嶋 華津子 (Kojima Kazuko) (00344854)	慶應義塾大学・法学部(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	福田 円 (Fukuda Madoka) (10549497)	法政大学・法学部・教授 (32675)	
研究分担者	油本 真理 (Aburamoto Mari) (10757181)	法政大学・法学部・教授 (32675)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	南 裕子 (Minami Yuko) (40377057)	一橋大学・大学院経済学研究科・准教授 (12613)	
研究分担者	中岡 まり (Nakaoka Mari) (80364488)	常磐大学・総合政策学部・教授 (32103)	
研究分担者	岡田 実 (Okada Minoru) (90738709)	拓殖大学・国際学部・教授 (32638)	
研究分担者	鈴木 隆 (Suzuki Takashi) (50446605)	愛知県立大学・外国語学部・准教授 (23901)	
研究分担者	呉 茂松 (Wu Maosong) (40612693)	慶應義塾大学・経済学部（日吉）・准教授 (32612)	
研究分担者	毛里 和子 (Mori Kazuko) (40200323)	早稲田大学・政治経済学術院・名誉教授 (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
国際研究集会 反腐败機構の制度的機能と限界 Detecting Corruption: How Successful and Effective?	2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関